

学びに向かう力 人間性等の涵養
・どのように社会・世界とかがわり、よりよい人生を送るか

文京区教育委員会 教育目標

「個が輝き共に生きる文京の教育」の実現を目指す

- 「心身ともに健やかで、自他を尊重し、人間性豊かにたくましく生きる人
- 自ら学び考え、表現し行動する人
- 社会の一員として広い視野をもち、日本の将来を担う人
- 地域を愛し、共に生きる社会を築く人

育てたい生徒像

茗台中のすべての生徒と共に、仲良くし安心して生活ができる

- ・自分のやるべきことを見つけ、行動できる生徒
- ・授業がわかり、楽しく学べる生徒
- ・自分を生かす場があり、成長できる生徒
- ・支え合い、認めてくれる仲間がいる生徒

茗台中学校 教育目標

- ◎自ら考え、学習に励む人
- 思いやりと自主自立の心をもつ人
- 心も体もたくましく、進んで行動する人

生徒がわくわくして
登校できる

迎える教員の姿

- 使命感、情熱あふれる教職員
- 人間性豊かで温かみの感じる教職員
- 信頼に満ちた教職員
- 自分を厳しく見つめ、他に思いやりをもてる教職員

保護者・地域とともに
つくる

活動する教員の姿

- 安心して過ごせる安全な学校
- 保護者、地域に開かれた学校
- 学校の様子がよく分かる学校
- 気軽に相談できる学校

みんなのわくわくを実現する学校

～生徒、教職員、保護者、地域が一体となった「チーム茗台」～

- 安心して安全な環境であり、何事にも生徒たちが中心になって取組み、互いに協力し信頼できる学校
- お互いを尊重しながらコミュニケーションを図り、笑顔で挨拶、声かけが進んでできる学校
- 地域との連携を密にし、協働し合いながら、子供たちの成長が実感できる学校

【知・徳・体のバランスのとれた力を育成するための具体的な取組】

確かな学力の定着

- ①教科ごとに学力調査の分析結果や生徒による授業評価を基に見直しを行い、授業の充実を努める。
- ②数学・英語において少人数授業、習熟度別学習に取り組み、理科ではティームティーチングを行う等、生徒の実態に応じた授業形態及び指導方法を工夫し、個に応じた指導の充実を図る。
- ③タブレット等のICT機器を活用し情報活用能力の育成を図るとともに、協働学習を通して「わかる」「できる」を実感する授業の工夫を行う。
- ④朝の読書活動を実施し、落ち着いた学習環境を創出し、読書習慣の定着と学力の基盤である読解力を培う。
- ⑤基礎学力の定着を図るため、ベーシックスキルアップ学習を工夫し、「終学習」を設定し、国語、数学、英語を中心としたドリル学習を行う。
- ⑥夏季休業日、放課後等に補充教室を実施し、各教科の基礎的・基本的な内容の定着を図る。

豊かな人間性の育成

- ①人権が尊重される社会づくりに向けた具体的な態度や行動ができる生徒の育成に努める。
- ②「いのちと心の授業」やDVD教材「SOSの出し方に関する教育を推進するための指導資料」を活用して生命尊重の心を育てる。
- ③道徳科において、「私たちの道徳」等を活用し、「考え・議論する道徳」を実践する。
- ④「アサーションプログラム」を活用し、一人一人の生徒が生き生きと学校生活を送れるように努める。
- ⑤本校いじめ防止基本方針に則り、人権教育プログラムや、対応マニュアル等を活用し、教職員の研修、アンケートを実施する等、いじめ、暴力行為、虐待の未然防止や早期対応を図る。
- ⑥hyper-QUテストを活用し、いじめを許さないよりよい学校づくりを推進する。
- ⑦学校図書館をメディアセンターとし、豊かな感性の涵養と課題解決能力の育成を図る。
- ⑧学級満足度向上モデル校としての取組を推進し、学校生活適応支援委員会を中心に、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、文京区不登校対応チーム、学校サポートチーム、不登校支援文京区モデル等の活用、関係諸機関との連携を深め、不登校等の解消や生徒の問題行動等の早期発見・早期対応を目指す。

健康の増進と体力の向上

- ①東京都生徒体力・運動能力等の結果に基づいた保健体育科の授業改善を推進する。
- ②がん教育を推進し、正しい理解と命の大切さ、自らの健康を適切に管理する力の育成に努める。
- ③外部指導員を活用した武道・ダンス・保健授業の充実や、体力テストの結果を活用して運動能力の状況を把握し、授業改善や学校行事、部活動に生かし、体力向上を図る。
- ④学校保健委員会や地域の医療・保健関係者の協力により健康指導を行い、健康の保持・増進に努める。
- ⑤食育推進委員会を中心に給食や家庭科、保健体育科等教科指導において、食に対する意識の向上と推進を図る。また、和食の日、ドイツ料理の日に食文化を学ぶ大切さに触れ、理解を図る。
- ⑥オリンピック・パラリンピック教育年間指導計画に基づき、「ボランティアマインド」「障害者理解」「豊かな国際感覚」の育成のため、組織的・計画的に推進する。
- ⑦開校60周年の節目を迎えるにあたり、儀式や行事等の教育活動を通して、良き伝統と学校文化を継承する心を育み、意欲的に学校生活に取り組む生徒を育成する。

開かれた学校づくりと保幼小中連携

- ①道徳授業地区公開講座、学校公開、学校行事を通し、本校の教育活動を保護者・地域に公開する。
- ②学校行事・学年便り等の各種印刷物、学校WEBを活用し、広く情報を公開する。
- ③学校支援地域本部と連携し、学校の教育活動に地域の力を積極的に活用する。
- ④子どもまつりや麹川マラソン等地域行事への生徒の参加を促すよう活動の幅を広げていく。
- ⑤小日向白町幼稚園でのボランティア活動や、後楽幼稚園を始めとした保育園・幼稚園での保育体験、金富小学校での学校紹介や児童を招いた中学校授業見学、連携推進ブロックを活用して小学校との接続を意識した情報交換を行い、連携を深め、中1ギャップの未然防止に努める。
- ⑥小学校との接続を円滑に行うため、入学当初のオリエンテーション及び人間関係づくりの充実を図ったスタートカリキュラムを実施する。
- ⑦9月から11月の学校公開に合わせてオープンキャンパスを実施し、区内の小中学生を対象に学校説明会や授業体験、部活動体験等を行う。

特別支援教育の充実

- ①インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育の充実等に努めるため、学校生活支援シート・個別指導計画の作成を行い、指導内容や指導方法の工夫改善を計画的・組織的に行うことで個に応じた指導を推進する。
- ②障害者差別解消法の趣旨を踏まえ、必要に応じた合理的配慮を全教職員に周知徹底する。
- ③区中学校特別支援教室「アドバンスルーム」拠点校として、ハンドブックに基づく運営と生徒指導の充実を図る。
- ④特別支援教育コーディネーターを中心に特別支援教育専門家チーム、巡回相談等を活用し、生徒理解の充実を努める。
- ⑤区中学校特別支援教室「アドバンスルーム」拠点校として、学校生活適応支援委員会を週時程に位置づけ、特別支援教育担当指導員や専門員との連携を通して特別支援教育を推進する。また、月に一回、拡大学校生活適応支援委員会を開き、情報の共有及び支援方法の検討を行う。
- ⑥特別支援教育専門家チーム、巡回相談等を活用し、生徒理解の充実を努める。

知識・技能
○何を知っているのか
何ができるか

思考力・判断力・表現力
○理解していること・できることを
どう使うか